



## やはり自然が一番



理事 城所 真人

今、私が園長業務の一環として取り組んでいるのは「里山保全活動」です。多摩丘陵の山林には地権者の整備が滞り、荒れた山林になっているところがありました。私の住んでいる稲城市は自然豊かな所ですが山林が住宅開発として整備されています。その中で残した自然地区でNPO法人や地域の人たちと新しく生まれる南山の街や、残された緑をともに守り育て、持続可能なコミュニティの醸成と緑と関わりあう街を目指して活動しています。NPO団体との連携をしていますが、園として出来る取り組みもしています。

自然の中では答えは一つではありません。自然と親しみ、体験し自分で気づき育つ里山の保育にチャレンジしています。

平成29年3月から、区画整理事業で開発から残された山林を取得して荒れた雑林を開拓いたしました。職員・法人役員・地域の支援を頂き2年間は整備中心に行ってきました。「里山プロジェクトチーム」として毎月、子どもたち・親子で活用出来る場づくりを職員と一緒に取り組んでいます。平日は園の子どもたちが利用し、週末には親子に開放して「自然と親しむ体験保育」を行っています。「みのりのもり」には柿・みかん等の苗木を50本植えました。「しろやまのもり」にはミニコンサートが出来るステージデッキをつくり、ログハウス・ピクニックテーブル・ガゼボ・トイレを設置しました。3か所目は畑づくりをしています。四季に合わせた苗を植えて、保育園での給食・食育に利用しています。

自然の中での体験で子どもたちの人間形成の基礎となる生きる力の土台を養えるよう、保育の中で4つのことを大切にしています。1つ目は「自分で考える力」。自然そのものが『遊び道具』、使い方が決まっていない自然のものだからこそ、自由に考えたり、工夫したり発想を膨らますことが生きていく中で大切な力を育てます。2つ目は「自然の命の大切さ」。虫や花の命には限りがあります。『今この瞬間を大切にしないと、二度と同じ瞬間に出会えない』、自然の中ではたくさん実感することが出来ます。3つ目は「自然の中で遊んで健康」。自然の中で遊ぶ時は、走り回ったり、木登りしたり、知らないうちに基本的な身体能力を使います。自然の中だからこそいろんなことにチャレンジし、五感をフルに働かせ全身を使って行う遊びは健康そのものです。4つ目は、「子どもが主役・大人は見守る」。自然の中では子ども自身が『身近にあるものを使ってどう遊ぶか』『どういうルールで遊ぶか』等考えることが大切です。

自然の中で遊ぶ時には危険が伴うこともあります。必要な時に大人が、しっかり手を差し伸べてあげられるように見守って活動しています。新型コロナウイルス感染拡大防止に保育園では、対応を求められる中ではありますが、子どもたちが感性豊かにのびのびと過ごせる自然の中での活動を続けていきたいと思えます。

私も来年には還暦を迎えます。健康な体づくりにジムに行くより里山での野良仕事で良い汗をかいています。今年は他園との交流は難しいですが落ち着きましたらぜひ遊びに来てください。四季折々の自然の楽しみを探してみてください。